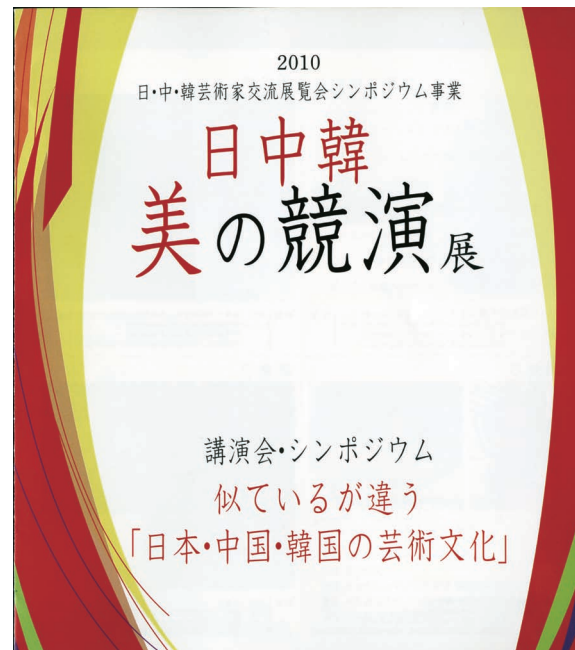


## 似ているが違う「日本・中国・韓国」の芸術文化。 展覧会とシンポジウムが大きな収穫をもたらした。



### 中国側代表

清華大学美術学院教授  
張夫也さん

#### 三カ国の芸術家は一つに繋がった。

このイベントは非常に成功し、三カ国の芸術家に深く忘れがたい印象を残しました。源を同じくする文化により、三カ国の芸術家は一つに繋がりました。文化芸術交流の更なる促進が幕開けされたと同時に、世界文化芸術の繁栄の促進のために喜ばしい貢献ができました。今後この権威あるイベントが引き続き開催できますよう、そして可能であれば、三カ国の間で順番に開催していくことを期待しております。

### 韓国側代表

ソウル大学美術大学教授  
徐道植さん

#### 三カ国の文化の同質性と差が明らかに。

日中韓芸術家交流プログラムは非常に多彩で有益な内容でとてもよい構成でした。三カ国の研究者が東アジア文化の同質性と差をよく覗いて見ることができ、薬師寺で開催した日中韓の芸術作品展とシンポジウムを通じて、各国の文化体系を確認できました。平城京で行われた効果は大きく、代表者として参加できたことを光栄に思っております。ご関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

2010年11月、奈良県薬師寺まほろば会館で、6回目となる「日・中・韓芸術家国際交流会」として展覧会とシンポジウムが催された。三カ国の類似と相違を比較する中で、これまでにない試みをいくつも取り入れ、交流会は盛況のうちに幕を閉じた。

#### 手にさわって五感で感じるユニークな展覧会。

2010年は、奈良は平城遷都1300年の式典で賑わった。その中において、異彩を放ったイベントが「日中韓 美の競演展」である。現代の日中韓の芸術家たちが展示会とシンポジウムを行った。これまで三カ国で順番に行われてきたものだが、6回目となる会を奈良の地で行うことは、発起人である平山郁夫さんが生前から決められていたものだ。

「平城京はシルクロードの終着点。その地で同じ文化の系譜を踏みながらも、異なる形で現代を迎えた三カ国を比較することで、これまでの活動にも区切りの結論もでてくると考えました」

主催した日・中・韓芸術家交流実行委員会の委員で、東京藝術大学美術学部教授の三田村有純さんはそのように語る。

2010年11月16日～18日、薬師寺まほろば会館での展覧会に、三カ国14人の芸術家の作品が集まった。素材はガラスや金属、漆芸など多様である。また、普段はありえないことだが、これらの作品は誰もが手で触れてもよいのだ。

「私たちも展示前にそれぞれ触って見ましたが、他の人の作品への興味が深まるんですね。とても勉強になりました」と三田村さん。会場は和室のたたずまいで、座って鑑賞する。五感で感じるという提案である。また展示品にはキャプションと国旗をつけて掲示したが、それを外してみるという試みも行った。

「そうするともうどれがどの国のものかわからない。今

はもう国境というものはないでしょう」

こうしたユニークな実験も功を奏して、会場は3日間とも満員だった。

#### 日本にのみ現存している中国と韓国の歴史的文化。

もうひとつの試みとして、芸術家たちは今回は展覧会の前後ほとんどの時間をいっしょに過ごした。展覧会場での飾り付けから片付けまで共に行い、寺社仏閣の視察も、夕食から寝るまで時間をともにして交流を図った。

唐招提寺では、普段は減多に入ることのできない御影堂にも行った。鑑真和上が唐より来日して建立した日本仏教開闢の地である。ここには鑑真和上座像が安置され、



日・中・韓芸術家交流シンポジウム



展示されている作品は手で触られるようになっている

#### 担当者より



密度濃い交流と感動の多いイベントができました。

東京藝術大学美術学部教授  
三田村有純さん

平城遷都1300年の数多くのイベントの中で、日程的に遅く行われた会ですので、全体を通じての結論を出すことも意識していました。過去5回にはない密度の濃い交流とともに感動の多いイベントができました。AJOSCの皆様、全日遊連の皆様にご挨拶申し上げます。

東山魁夷の筆による襖絵が収められている。

ひとつひとつの絵は風景画であるにもかかわらず、見る者に鑑真の波乱に満ちた人生と仏教への執念を語りかけてくる。集まった現代の芸術家たちはただただ凝視し、黙した。

「芸術の持つ無言の説得力と表現力を再確認した。あの襖絵は文化がどうやって伝わるのかさえも語っていた。あれこそが芸術だ」とそこに国境はなかった。

また、三田村さんにはある予想があったが、その予想は的中した。日本の文化を見て皆一様に安心したというのである。

「奈良の地に、自国の文化が残っていることを確認したのです」と三田村さん。中国のある芸術家などは、「ここは中国の唐そのものだ」とさえ言った。しかし、中国にも、韓国にもはやその文化の隆盛を示すものはほとんど残っていない。王朝が変わるたびに為政者たちは前の王朝を否定して、歴史の中に葬ってしまったからである。その点、日本では幕府は変われど、朝廷が続き、文化は途絶えることなく積み重ねるように発展してきた。

これは同時に開催されたシンポジウム「似ているが違う、日本・中国・韓国の芸術文化」での回答のひとつでもある。同源であっても、気候、政治、気質などによって文化は微妙に変容する。では今後の文化交流はどうあるべきなのか。芸術家たちの活動はまた新しいステージに入る。